

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
令和2年度第1回博物館協議会の開催結果概要

1 博物館協議会の概要

当館の博物館協議会は、博物館法第20条の規定に基づく法定組織であり、茨城県博物館協議会条例により設置されている。

委員は13名で、任期は2年となっている。うち1名は一般公募により選出されている。

会議は、委員長によって招集され、通常年2回開催している。

博物館法

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

2 日時

令和2年12月4日（金）14時00分～15時50分

3 場所

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 講座室

4 出席者

佐々木安代委員，田切美智雄委員，田中ひとみ委員，生田目美紀委員，濱野一美委員，樋口正信委員，町田 満委員，山崎千恵子委員，吉見 剛委員，鷺田美加委員

※事務局出席者

横山一己館長，熊田勝幸参事兼副館長，小川均副参事，北條薫管理課長，泉水正和企画課長，小池 涉教育課長，中寫政明資料課長，小幡和男首席学芸員，大崎昌幸係長，鵜沢美穂子副主任学芸員，高橋優華主任，檜山 諒主事

5 議事概要

(1) 館長挨拶：

本日はご出席いただき本当にありがとうございます。このコロナ禍は博物館始まって以来の大きな弊害となった。昨年度の始めは入館者数も入館料収入も好調で、開館以来 2 番目に高い入館者数に達するのではないかと期待していたが、年度末に学校が一

斉休校となり、遠足での来館もなくなり、最終的に48万を少し超えるくらいの入館者数となった。今年度に入って5月の連休を含めて1か月の臨時休館もあり、その後も団体予約の制限もあり、非常に少ない入館者となっている。夏に開催した深海展は、助成金を得て今までの倍の予算を使った。入館者が20万人を超える予想で助成金の申請をしたが、最終的に10万人を少し超えるくらいになった。現在のブナ展も当初は心配していたが、11月1ヶ月間で約3万人が入った。コロナの中では深海展もブナ展も健闘したのではないかと思っている。コロナ禍で最も影響が大きかったのはイベント中止や野外施設の水の広場等の利用中止などによる来館者サービスの低下。職員は、通常業務に加えて、定期的な全館の消毒などコロナ対策の業務があり、苦勞をかけたと思っている。

職員一同、皆様から貴重なご意見を賜り、今後一層良い博物館になるようにしたいと思う。

(2) 正副委員長選出：

事務局：茨城県博物館協議会条例第5条の規定によりますと、委員長、副委員長各1名を、委員の互選により選出することとなっておりますが、皆さまいかがでしょうか。

委員：事務局一任。

事務局：事務局一任の声が挙がりましたが、いかがでしょうか。

委員：異議なし。

事務局：事務局案を申し上げます。委員長を田切委員に、副委員長を樋口委員にお願いしたいと考えております。

委員：異議なし。

(3) 委員長挨拶：

このような時勢ですので会議は短めにしていきたい。この協議会は博物館にとって大変重要な会議なので、皆さんの意見を引き出せるようにしていきたい。

(4) 議案説明（事務局）

議題

- ① 令和2年度前期事業の報告について
- ② 新型コロナウイルス対策について
- ③ 令和2年度後期事業計画について
- ④ 予算・決算などについて
- ⑤ その他

(5) 質疑・意見交換

○議題 ①～⑤について

A 委員：

深海展がとても素晴らしかった。魚拓が印象に残った。この大変な中で、本当に興味があるものはリスクがあっても来館されるのだなど。一つでも心に響くものがあれば、自然への興味関心に繋がり、生活の行動の変化、さらには地球が良くなるきっかけにもなると思う。

YouTube の動画配信をされていて素晴らしい。コロナ禍でも家で楽しみ、学べるのが良かった。YouTube の動画についてどのような体制で作られたのか、プロに依頼したのかなどを伺いたい。短く簡潔で素晴らしかった。今後もぜひ動画配信は続けてもらいたい。

福井県立大学の講師を遠隔でつないだオンライン講座は良い試み。今までできなかった、遠方の講師や海外の専門家と子どもたちが触れ合う機会がオンラインで作れたら良いかもしれない。コロナを良い方向に生かして欲しい。

コロナ対策について、ソーシャルディスタンスの恐竜の足跡が可愛くて、こういった細かい所の配慮が良かった。館内の消毒が非常に大変だと思うが、試験的にロボットを導入し、閉館後に一気に紫外線で消毒している図書館もある。企業からの試験導入かも。そういうことがもしできたら、作業が軽減されるかもしれない。

事務局：

YouTube は、動画編集に長けた職員がおり、予算をかけず、当館の職員のみで作った。動画を配信したさくら展は、臨時休館期間に十分に時間が取れたので、撮影編集のまとまった時間が取れた。できれば今後も作りたいが、どの程度できるかは不透明。

消毒作業は、今はマンパワーで作業している。博物館は剥製など扱いが繊細な標本資料もあるので、図書館と同じシステムが使えるかは研究が必要だと思う。

集客施設にとっては、来館者の安全安心が一番であり、展示室内が密になっている時もあったため、反省している部分もある。深海展開催期間中、土日祝日は 29 日あったが、そのうち半分の 14 日で入場制限を行った。1 日の入場者数も最高で 3 千 5 百人を超え、密になることがあった。この反省も踏まえ、現在事前予約の準備を進めている。

B 委員：

この 1 年はコロナ対応につきると思う。来館者の安全の確保、その中でいかにたくさんの方の来館者を迎えるか、そして職員の安全確保、この 3 点が大事だと思う。

これから 1 年、厳しい状況が続くと仮定すると、例えば、思い切って 2～3 か月休館して、今までできなかった必要な改修などが、この際にできたらよいのではないかと。難しいかもしれ

れないが、どう考えているか伺いたい。また、リモートワークなど、職員の安全確保についても改めて伺いたい。

事務局：

収蔵庫の空調の修繕など、開館に支障がない範囲でできる修繕は、休館日等を活用しながら対応を行っている。色々やりたいことはあるが、予算の確保が一番の問題。予算が確保できれば、長期休館での改修も検討したい。リモートワークについては、第1波の時に県全体での働きかけもあり、当館においても、リモートワークと休暇の取得を推進した。年末年始も、リモートワークと休暇の取得を推進し、コロナ対策と働き方改革を進めているところである。

C 委員：

現在の所、結果として職員にコロナ感染者が一人もいない事から、その努力の結果が表れていると言えると思う。

D 委員：

近所のお孫さんは常設の恐竜を見るために何度も来ている。ブナ展を拝見し、自分に興味がなかった企画展でも、とても楽しかった。企画展のテーマは、どこに焦点を当てて決めているのか伺いたい。一般の市民が興味があるものも、リクエストしたらやってもらえるのか。

事務局：

企画展のテーマは、動物・植物・地学の3つの研究室からテーマ案を出してもらい、約3年前から準備をすすめている。79回にもなるので、テーマは重複することもある。チーフを決めて、チーフの関心があるものであったり、チーフを中心にメンバーで話し合ったりして、皆様にも関心を持ってもらえるものとしてテーマを考えている。

事務局：

企画展ごとにとっているアンケートで、どんな興味関心があるか、どんなテーマの企画展が良いかも聞いている。極力、お客様の声も吸い上げながら、今後の企画展に生かせればと考えている。

E 委員：

コロナが大変な中であるが、深海展が10万人を超えたのは素晴らしいこと。NHKでPRをしていたのが良かったのではないかと。色々なところからPRをしていけば来館者も増えるのではないかと。

リモートについて、実際には見て触れてということが基本で大切だと思う。本来は対面が

必要。今は仕方が無いが、コロナが収束したら、両方使っていければ良いと思う。

事務局：

実のところ、このところのコロナの関係で、本当は来館者にたくさん来て欲しいが、たくさん来た場合にご迷惑をかけてしまうので、PRは非常に抑制していた。必要最低限の広報活動は行っていたが、こちらから積極的な働きかけはしていなかった。数日前に取材を受け、隣接する菅生沼が特集された。問い合わせが多くあり、PRの重要性を感じた。

事前予約制を導入することで、ある程度入館者をコントロールできることから、今後これまで抑制していたPRを積極的に行えるようになると考えている。

F委員：

入館者数50～60%減とあるが、この状況で通常の50%も来館者がいることはこの業界ではとても多い方。こちらの博物館の努力の結果ではないか。

何をするにも予算が必要であるが、深海展で2,200万円も助成金を得たというのは、どうやって得られたのか知りたい。

コロナの対策について、私の所で経験したことをお話ししたい。企画展の土日に人が多くなるので事前予約制にしたが、高齢者やネットになれていない方はわからずに来てしまい、怒られてしまう。紙でフォーマットを作っておいて、当日でも連絡先の把握等、受付を対応できると良い

企画展は、多くの方に来ていただく博物館の武器になる。いかに魅力的な企画展を準備するかということだが、この博物館はチームを組んでやるのが素晴らしい。特に解説書が充実している。残念なことは、企画展の展示解説書が会期中しか入手できないことが多い。今後、著作権をクリアして、刊行物のデジタル化を考えてはどうか。世界の財産になる。

休館中に職員はどう過ごしたのか伺いたい。東京は職員全てが2か月在宅勤務になった。臨時休館中にプラスになったことを聞きたい。研究者は在宅で論文が進んだという意見もあった。研究費を返還したことで、館の財政を支えたということもあった。

事務局：

深海展は学芸員の実績もあって助成が認められたのだと思う。

事務局：

展示解説書についてはショップで販売しているが、売り切れているものも多い。館としては在庫を持っているので、研究等の参考にしたい等の理由があればお譲りすることもできる。

事務局：

展示解説書は、校正を全職員でするので、素人がみてもわかりやすくなっていると思う。自粛期間も出勤している職員が多かったが、雑務がないので学芸系職員は自由な時間が取れ、それぞれの研究などに時間を使えたと思う。

G 委員：

今回の会議で、マイクの受け渡しの度に手袋をしたスタッフが一回一回消毒しながら渡していて感心した。

今年は、コロナで展示室のボタンを押すことも抵抗があった。試験的にでも非接触のスイッチを置いたのは良かった。今後拡大されると良いと思う。

先日美術館に行ったところ、完全予約だった。とても人気の企画展で、普段ならアナウンスで急かされるところだったが、入館者が少なく、ゆっくり見られて良かった。ぜひとも事前予約制を前向きに導入していただきたい。

平成 24 年から入館料収入が 2 倍になって、予算も増えている。運営側としてどう分析されているか伺いたい。

事務局：

当館の予算は入館料収入に左右される。入館料収入が増えたので、予算も増えている。できるだけ魅力的な企画展にする努力をしている。今までやったことのない企画展にも挑戦している。その結果だんだん人が増え、予算も増えてきた。

事前予約制については、すでに導入している全国の博物館を調べた結果、当日枠も設けて対応しているので、当館でも当日枠を設けることを検討したい。

現在リニューアルの予算要求に向け調整しているが、なかなか進まないのが現状。開館してから 25 年以上経過しているが、恐竜の 7000 万円しか大きなリニューアルの予算が付いていない。お金が無い状況でやっているということを理解していただきたい。

H 委員：

ミュージアムパークの大ファンで足繁く通っている。深海展のダイオウイカが常設に移設されていたのが嬉しかった。今回の説明と資料を読んで、運営方針に従ってバランス良く運営しているのがわかった。入館者が増えたのは、誰かブレーンが付いたのでは無いかと思っていたが、魅力ある企画展を作るのが大事なのだと感じた。

企画展のポスターも解説書も魅力的だが、ポスターのデザインはどうしているのか。同じデザイン事務所に依頼しているのか、コンペをしているのか。また、企画展の展示更新を 20 日くらいで行うのは大変だと思うが、どのようにやっているのか、伺いたい。

オンライン配信は、視聴覚障害者へも有効。字幕や副音声も入れられる。もっと頑張れば手話の映像も。オンライン配信に、追加の情報を入れていただけると嬉しい。

このコロナ禍では難しいかもしれないが、ハートフルミュージアムのようなことを今後

も続けて行ってほしい。視聴覚障害者への理解ある姿勢を、オンライン配信にも生かせば、障害者の方々もずっと付いてきてくれる。

予算が無くても手話映像を付けたい、というときは、頼んでいただけたら協力します。第5展示室の植物の繁殖の映像は、残念なことに音声だけで字幕がないので、手話映像があると良い。

事務局：

字幕含めて、障害者の方々への配慮をしていきたい。

企画展の準備は非常に大変だが、オープン直前1週間くらいに、たくさんのOBが手伝いに来てくれる。そのような所がこの館の強みだと思っている。

ポスターの印刷業者は入札で決めている。3業者くらいから決まる。ポスターについては印刷業者がデザインを考え、3回プレゼンを行って決めている。皆で色々な指摘をして、良いものになるようにしている。

I 委員：

コロナの中大変な努力をされていると思う。

コロナ禍の中で、市民の体験活動の欲求が増えてきていると思う。博物館は野外をもっと活用して、楽しく回れる工夫をすると館内の密を避けられるのでは。

出張授業について、オンラインなら同時に複数の学校もできるのでは。ネット上にアップして、いつでも教材を使えるようにするのも良い。その時に、リアルなものに見て触れることも大事なので、授業セットを事前に送るのも良いのではないか。

オープンデータ化を博物館でも進めて欲しい。企画展のものや調査データなど、博物館が積み上げたものを色々な人が活用できるようにして欲しい。

博物館ではたくさんのボランティアが活動されていると思うが、高齢の人も多いので、コロナ禍でどうしていたのか伺いたい。ボランティアの手を借りず、職員だけで色々な活動をするのは大変なのではないか。

事務局：

コロナ禍で密を避けるために野外を無料開放することも考えた。しかし、館内も野外も入り口が同じなので、野外に誘導するのが難しいと判断した経緯がある。

オンラインについてはまだ活用を始めたばかりで試行錯誤しながら行っている。今後研究を進めたい。また、アウトリーチ事業として「移動博物館」や「教育用資料貸出」を行っており、学校で本物と触れあえる機会を作っている。このことについてもっとPRしていきたい。

オープンデータ化については、収蔵資料のデータベースの公開を行っている。今後も継続して行っていきたい。

ボランティアは、高齢者に外出自粛を要請がでていた時期もあったので、なかなか活動できなかつた。状況を見て、今後充実させていきたい。今のところ、来館者と接触しない活動（資料整理など）を自発的に行っていただいている。

J 委員：

ブナ展の展示解説書は、大人も引き込まれる。きっかけが無いと、手に取らない人も多いかもしれない。幼稚園で子どもたちに内容を話してみた。表紙だけでも「これなに？」と話が盛り上がった。大人が理解して興味を持つことが大事。一般向けへも、オンラインなどで展示解説書のアピールができると良い。

幼稚園の一角に、わざと草を生やして自然を残した区画を作っている。虫が集まってきたり草花が咲いたりして子どもたちが親しんでいる。博物館の野外も、整備しつつ、自然を残す努力をしてくれている。これからも維持して欲しい。

事務局：

展示解説書は展示に沿った内容にしているので、単独で読まれるというよりは、企画展を見た方が、振り返りや、展示をより詳しく知るために購入される場合が多い。展示室でも、大人がお子さんに解説してくれている姿を見て、とても良いなと思っている。委員のように、子どもたちに解説書の内容を話してくれることも、とても嬉しく思った。そのように、展示を見た後の、子どもとの振り返りに使っていただけたらとても嬉しい。